

関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	京都盆地・山城盆地・大阪平野の地表環境と地下地質		
研究者	(所属と氏名) 同志社大学理工学部 増田富士雄		
研究期間	2010年 10月 ~ 2011年 9月	報告日	2011年 9月 30日
<p>研究目的：</p> <p>京都盆地・山城盆地そして大阪平野には厚い堆積層が地下にあることが知られている。この研究では、この地域の地形の特徴と表層地質との関係を探ることを行っている。地形システムを構成する堆積物の重なりが地層を形成するので、地質と地形は相互に関係して形成される。関西圏地盤情報データベースを利用して、地形と地質がどのように関係しながら形成されるのか？という問題を調べるのがこの研究です。</p> <p>研究内容と成果：</p> <p>昨年から本年にかけての研究対象は、主に、山城盆地と大阪平野である。</p> <p>山城盆地の研究では、地下浅所に、広大な湖沼とそれに流れ込むいくつもの河川卓越型の流路が見いだされてきた。すなわち、現在の破堤卓越型の木津川の下流域の地表環境は、昔に、おそらくは中世まで発達していた湖沼三角州システムに支配されていることが判った。すなわち、現在の河川流路、集落の分布、道路などは現在の地表環境ではなく、一昔前の地表環境に強い影響を受けていることが明らかになってきた。</p> <p>大阪平野の研究では、沖積層を対象に、氷期の淀川の復元、海進期の波食による地形の改変、海成粘土層の堆積環境、海退期の大和川と淀川の変遷を明らかにしている。特に、これまでほとんど論じられることがなかった海進期の波食作用が地形に与える影響の大きさを示すことができた。また、海成粘土層の堆積環境も地域毎に、内湾底堆積物と泥干潟堆積物という大きく異なった場であったことが判った。これらの成果は、2010年9月の「関西地盤DB利用連絡会」で、『ダイナミック地層学の適用：関西圏地盤情報データベースを用いた沖積層の解析』という講演で発表した。また、日本地質学会でも発表した。</p> <p>公開資料（論文等）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Yuka Ito, Fujio Masuda, Takashi Oguchi (2010) Crevasse splays and channels in the lower reach of the Kizu River, southern Kyoto, central Japan. International Conference in Turkey, The Japanese Geomorphological Union, Ankara University, Science Council of Japan, Geomorphological Research Committee. ・ 増田富士雄・谷口圭輔 (2011) 旧神戸外国人居留地遺跡で観察された江戸時代の振動流（津波？）堆積物。発掘調査報告書、9-15, 神戸市教育委員会。 ・ 増田富士雄 (2010) ダイナミック地層学の適用：関西圏地盤情報データベースを用いた沖積層の解析。関西圏地盤DB利用連絡会、19 p. ・ 小川和宏・増田富士雄 (2010) 大阪平野の沖積層。日本地質学会第117年学術大会講演要旨、P-213, 280. 			

※貸出期間終了後、研究利用報告書（本様式）と研究成果（論文等）を提出してください。
 ※研究利用報告書は、KG-NETのHPに掲載いたします。